写真で見る昭和の横浜⑧

昭和初期の個人均一店

均一店は、現代の一〇〇円ショップのように、全商品をひとつ、または数種の価格で販売する小売店をいう。

日本では呉服店等が均一価格による売り出しやコーナーを設けるなどが明治期からあったが、アメリカにおけるウールワースの均一チェーン店の紹介などが刺戟となり、昭和初期には十銭均一や、また、二つの価格の十銭二十銭ストアなどが誕生した。

この昭和初期において、いちばん有名で多店舗の均一店は、高島屋百貨店が三一（昭和六）年から展開した高島屋十銭二十銭ストアであった。同店は、三五（昭和一〇）年には五〇店舗を越え、四〇（昭和一五）年には一〇〇店舗を超える店舗数であった。横浜市にも伊勢佐木町一丁目に出店している。

このようなチェーン均一店が出現した一方で、個人店による均一店も現れてきた。昭和初期は不況や百貨店の台頭などで小売業の改善が問題となった時期であり、さまざまな改善策が模索されたが、このような時期に紹介された均一店に新しさを感じ、導入を試みたのであった。

中区伊勢佐木町四丁目にあった「天狗屋十銭ストア」もこのような店のひとつであった（写真1、2）。同店のもとは、夜光堂本店として洋傘やショールなどの洋品を販売する小売店であった（写真3）。

しかし、このような個人経営の均一店は、高島屋十銭二十銭ストアのような百貨店資本のチェーン店と比較すると、単一販売価格の商品を継続して揃えるなどの仕入や販売において不利でありチェーン店化しないと対抗できなかった。三三（昭和八）年頃に多くの均一店が開業したが、失業者の転業や営業不振による転業によるものが多く、小資本で商品の知識も無く将来性のない経営であったために、大規模経営と対抗し得ず廃業が続出したと、三五（昭和一〇）年の商工省の調査は述べている。

写真の天狗屋十銭ストアの開業時期は不明であるが、資料提供者である夜光昭三郎氏によると、長くは続かなかったとのことであった。『横浜市商工案内』昭和五年、八年、一二年版においても、夜光堂のみの掲載であるので、短期間の改装であったようである。

写真1　天狗屋十銭ストア　夜光昭三郎家資料

写真2　天狗屋十銭ストア　夜光昭三郎家資料

写真3　夜光堂本店　夜光昭三郎家資料

【参考文献】
『連鎖店及均一店ニ関スル調査』（商工省商務局）一九三五年、『「高島屋十銭二十銭ストア」に就いて』（商工省商務局）一九三六年、『中区わが街』（中区役所）一九八六年。

（百瀬敏夫）